

令和 7 年度 C S 挑戦応援事業について

- 1 目 的
- コミュニティ・スクールとして、学校と地域による熟議の活性化を図り、子どもたちが安心して学び、成長できる場を提供する取組への支援を行う。
- 2 期 間
- 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
- 3 対 象
- 東広島市立学校が設置する学校運営協議会が主体となり、次のことに取り組むもの。  
①学力向上を目指した学習支援  
②不登校児童生徒の居場所づくり  
③上記①②の両方を含む取組

- 4 支援の内容
- (1) 対象となるのは、各年度 5 校（審査を通過した学校）  
(2) 需用費に係る 最大 2 0 万円の補助
  - ・環境整備に係る消耗品費（教材準備、文房具等）
  - ・印刷製本費（教材作成、広報等）  
(3) 支援期間は最長 3 年間で、年度ごとの申請が必要

5 実施協議会と計画内容

学校運営協議会	原小学校	御菌宇小学校	風早小学校	福富小・中学校	豊栄小・中学校
取組内容	①学習支援	②居場所づくり	①学習支援 ②居場所づくり	①学習支援	①学習支援
取組内容の概要	放課後の時間を利用して、地域センターにて学習支援を行い、地域から児童への支援を行う場を提供する。	不登校児童を対象に、学校外の居場所づくりに向け、地域における支援ネットワークを構築し、開設・運営する。	①家庭学習に支援が必要な児童に対し、C S 推進員が中心となり、地域の学習ボランティアの方と協力して、学習支援を行う。 ②地域の方が「おすすめの本」を選び、推薦の理由や顔写真を入れたポップを添えて展示するコーナーを設置する等、子ども達の興味を喚起し、居心地のよい図書室づくりを行う。	I 大人の見守りのもと、児童生徒が自習できる学びの場を提供する。 II 生活デザイン・工学研究所の方を講師とし、P C を使った学び（プログラミング等）を支援する。	I 学習習慣を身に付けよう （1）自習学習スペースの提供 （2）プログラミング教室の実施 （3）社会・理科・家庭科・数学等の教科において、特別講座を実施 II 地域のお話を聞こう 「地域再発見講座」 ・町内の課題を取り上げ、その解決について話し合う。 ・町内の企業の仕事内容を知り、職業への興味・関心を高める。
日時・場所	・毎週火曜日 1 5 時～1 7 時 ・原地域センター	・隔週木曜日 9 時～1 2 時 ・御菌宇地域センターに、不登校児童支援の場を開設 ほっとスペース「ふらット」	・毎週火・木曜日 1 4 時 3 0 分～1 6 時 3 0 分 ・校内 1 階 C S サロン	I 及び II ・毎週木曜日 福富支所 ・1 6 時～1 7 時 3 0 分 I ・毎週火・水・金曜日 1 4 時 4 0 分～1 5 時 3 0 分 ・福富小・中学校	I （1）（2）及び II ・毎週水曜日 1 6 時～1 7 時 ・豊栄中学校 I （3）・定期的に週末開催 ・豊栄小・中学校
期待される成果	放課後子供教室の展開に併せて、放課後を有効利用して、宿題の定着並びに表現力とコミュニケーション力の向上に必要な創造性を身に付けることができる。	・不登校児童が校区内の居場所で、地域の大人の支援者と過ごすことにより、人とのつながりをもつことができる。 ・児童の情報を学校と共有することで、指導や支援に生かすことができる。	①家庭学習が困難な児童が宿題をやりきることで、自己肯定感を高め、基礎学力と学習習慣の定着を図ることができる。 ②読書への関心が高まり、不読率を低下させることができる。また、教室に入りにくい児童の居場所づくりとする。	・放課後を活用し、学習機会を確保することができる。 ・地域に子どもたちの姿を見てもらうことで、学校の取組を情報発信することができる。 ・地域の方と児童生徒との交流が生まれることにより、児童生徒が地域の一員としての自覚や愛着の気持ちを持つようになる。 ・市施策である「福富みらいベース」の運用に向けたプレ運用になる。	・放課後を有効に活用し、学習機会を保障することができる。 ・生徒の興味・関心を高め、学びに意欲的に取り組むことにつながる。 ・地域の方と協力して活動することで、生徒及び教職員が地域の一員としての自覚をもつことにつながる。
支援者	地域支援者（広島大学名誉教授） 広島大学学生	学校運営協議会委員 地域ボランティア	C S 推進員 学習ボランティア（各回 5 ～ 6 人）	学校運営協議会委員、福富支所、久芳地域センター、久芳自治協議会、地域ボランティア、生活デザイン・工学研究所	学校運営協議会委員、豊栄支所、町内各地域センター、地域ボランティア（地元企業）、地域おこし協力隊員、小中学校教職員